

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 講師

氏名 杉田和俊

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

講義については、理解できる講義や資料を提供することに努めている。そのためには、事実に基づいた内容を自分の言葉で講義する必要があると考える。特に環境衛生分野や機器分析化学では専門用語なども多く、不慣れな学生が多いため、原理などを簡単・明瞭にした資料を提供することを心がけている。獣医学科の学生に対してはコアカリキュラム、国家試験などを意識した講義や実習が必要である。動物応用科学科の学生に対して基本として知っておいてもらいたい点を整理して提供する。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医公衆衛生学(環境衛生)	獣医学科	必須	4年	140
獣医公衆衛生学実習Ⅱ	獣医学科	必須	4年	140
公衆衛生学	動物応用科学科	選択	4年	60
機器分析化学	動物応用科学科	選択	3年	60
毒性学-機器分析実習	動物応用科学科	選択	3年	60
環境計量学・同演習	環境科学科	選択	4年	5
動物形態機能学・臨床検査学実習Ⅱ	保健看護学科	必須	2年	80
動物臨床検査学	保健看護学科	必須	2年	80
専門学外実習	獣医学科	必須	5年	140

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

獣医学科の学生には国家試験対策としての知識を蓄積・整理すること、及び有機的な事象の繋がりを考えさせることを目標としている。特に実習では、実際に検査や測定を行うことで、原理などを理解し、印象付けることで国家試験対策にも繋がりたいと考えている。動物応用科学科及び環境学科の学生に対して、就職支援のために技術の原理を習得してもらうことを主な目的としている。動物応用科学科で講義・実習している機器分析では、実際の食品や環境の評価方法やその原理について習得し、分析（機器分析）を評価ツールとして利用できることや実際に評価することで、就職支援に繋がりたい。環境科学科での演習では、国家資格である「環境計量士」の資格取得を支援している。微量分析の経験を生かして、保健看護学科ではGCやLCの原理やどのように使われているかを講義している。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

講義で念頭においていることは、理解しやすい講義・資料を提供することである。なるべく身近な事例をあげ、「覚える」というよりは「わかる」といった内容を心掛けている。そのため、小テストを取り入れ、重要ポイントを明確にし復習としている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

無

特に意識して取り入れてはいない。基礎的な内容が多く、人数も多いことから、まずは一人一人が基礎知識を身につけることが重要であると考えている。

(2) ICTの教育活用

有

環境衛生、特に地球環境については、グローバルでありながら個々人の行動が問われている。ネットワークを活用することで、最新の情報や様々な観点が得られることから、講義資料の作成にも活用している。また、講義や教科書ではカバーできない様々な知識を得ることができることから、受講生たちにもネットワークを活用した調査を推奨する一方で、信頼性の高い情報源を活用するよう指導している。近年では意図的な誤情報なども多いことから、ネットワークやAIの活用には注意が必要であり、それらも含めた情報を土台に自分で考え、行動することが重要であると指導している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

講義では身近な問題として公衆衛生、環境衛生を感じてもらえるよう、具体的な例を示しているものの、完成度としてはまだまだである。

(2) 学生の理解度の把握

B

小テストを実施している。しかし、その時だけの知識になっており、小テストの構成を考え直す必要性を感じている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

C

事前に講義資料を配布しているものの、なかなか予習をしてもらうまでには至らない。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

実習では積極的に学生に声をかけ、疑問点の解消に繋げている。

(5) 双方向授業への工夫

B

獣医学科の講義では人数が多く難しいが、実習のレポートなどフィードバックを実施した。人数の少ない演習では、時間内で問題を解いて、解説を実施している。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

講義や実習では、過去に出題された内容があれば紹介している。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

次年度の講義資料で指摘された点を修正。加えて内容を見直している。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

全員が満足するものは準備できていないと考えられる。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

内容をより具体的に、かつ優先順位をつけて、重要度を明確にする。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組
重要な基本事項は繰り返し説明することで、その重要性を認識させる。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組
に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

試験では多くの学生が理解していると考えられた。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

基本的には、研修には参加し、自分自身への振り返りを実施している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

公衆衛生、特に環境衛生では身近な事象を取り扱うことも多いことから、講義や実習で身につけたことを起点に自分自身で考え、発展できるようになってほしい。そのためには、具体的で実践的な講義内容や実習内容を盛り込み、受講生の理解度を向上させたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

講義資料、小テスト